

## ○ 協働事業の概要

記入年月日 平成25年5月7日

事業名	バイオディーゼル燃料等、自然エネルギー活用推進のための調査研究事業 (いきいき協働事業)
団体名	こだいら菜の花プロジェクト
担当課名	環境保全課
事業期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

①地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

- ・廃食用油がバイオディーゼル燃料(BDF)として活用可能であることが市内に浸透し始め、BDF 製造業者に廃食用油の回収を依頼するところが出てきた(学園坂商店街きんどん市、市内の飲食店)。まだ微々たる動きではあるが、廃食用油に関して、ごみの削減、資源の有効活用が進む方向性が見えてきたと考えている。
- ・農家にBDFの使用を働きかけ、市内2軒の農家が新たに BDF による農耕車の使用を行う予定である。(2012年3月27日に JA むさし小平支部青壮年部の BDF についての勉強会を予定していたが、雨の為延期されてしまった。)
- ・小平市環境フェスティバルでの電源供給に、BDF を燃料とする発電機が使用された。(2012年)
- ・市内で自然エネルギーとしての BDF の理解と利用が進み、今後のさらなる活用へ可能性が高まったと考える。

②自らの団体の長所が、発揮出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開できましたか。)

- ・市民団体ならではのフットワークで、様々な組織に働きかけたことは有効だったと考える。
- ・市の協力を得て、ごみ減量推進実行委員会(事務局はごみ減量対策課)の BDF による発電機の使用、市内農家に BDF に関するアンケート実施、八王子市 BDF 製造施設見学等、行うことができた。また、広報面での支援もあり、効果的な事業展開を行えた。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

- ・連絡を取り合いながら、連携しつつ事業を進めることができた。協働事業の目的を、両者で十分に共有できていたことが大きかったと考えている。

④改善提案がありますか。

- ・今回の事業ということではなく、協働事業全体について、市の事業計画(地域エネルギービジョン等)と、市民の提案事業とのすり合わせが難しいと感じている。改善策については、市民側としても課題だと思う。

自由記載欄

- ・単年度の事業ではあったが、結果を出すことができ、さらに今後の可能性を探ることができた。当会としては、さらに、市内での BDF 活用を広げる活動を継続していく。